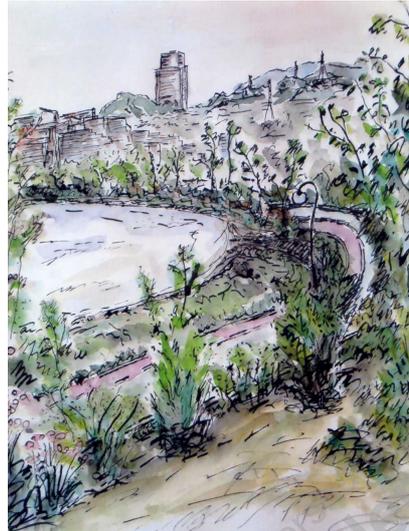


鐘華会九州支部だより

九州支部だより 第12号
発行 2007年5月15日
発行者 中村 晃

葦ペン画を始めました

青 木 得 志



昨年の春、書店で中村洋一先生の葦ペン画集を手にして眺めているうちに何となく心惹かれて買い求めました。奥書によると先生はグラフィックデザイナーとしてご活躍中に葦ペン画の道に入られ、今日では受講生100名超の指導者となられ毎年の個展をはじめ年1回の展覧会「ぶらり福岡の街／筆ペン画展」をやっておられます。

メールに受講したい旨お願いしたところ4月から新しい教室を始めるとの通知を頂き入門して1年になるところです。

ペンは、冬枯れの室見川で先生が採取された葦の茎をカッターナイフで削って作られたもので、最初の教室の日に2本ずつ頂き、削り方や製図用黒インキのつけかた、画用紙とペンの角度と筆圧の加減で遠近感や線の大きを描きわけることが基本であることを教わりました。

月一回、先生のご自宅での教室を数カ月受講してペンの使い方を練習しました。使い方を忘れぬよう少なくとも10日に一度は自分

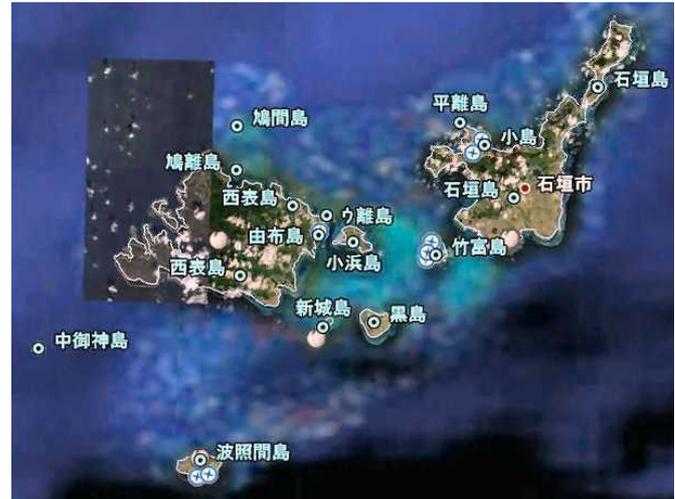
で写生をすることが肝心とのことでした。

10名前後の曜日別グループで天気が良ければ月1回、風景淡彩画を描くことになり、指定された日の10時に舞鶴公園入口に集まり先生の決められた地点で写生します。先生はご自身の写生もされながらまわって来られて指導されます。正午には解散ですので正味1時間半位の時間で仕上げるためインキが乾けば透明水彩絵具で淡彩をつけます。乾かないうちに色をつけると水性インキが溶け出し黒ずみ暗い感じになります。このあたりが最も難しいところだと感じています。重ね塗りも下の色が乾かないと滲んでしまいます。

昨年10月の作品を11月末から12月初めに福岡市美術館で行なわれた葦ペン画展に出展して頂きました。その後の作品数点を含め写真にしました。焦らず気長に楽しみながら続けていこうと考えています。

南へ 八重山諸島めぐり

市 木 丞



石垣島…日本最南端の都市。人口約 45、600 名。石垣島は沖縄県で沖縄本島、西表島、について 3 番目に大きな島です。八重山諸島の人口の 90%が集中し行政・経済・交通の拠点となっている。昨年、高校野球で甲子園を賑わした八重山商工校もこの石垣島に在る。東京から 2,250km・福岡から 1,150km・那覇から 2,801km と遠く離れている。しかし、台湾までわずか 420km に位置し、ハワイ・ホノルルとはほぼ同じ緯度であり、年間平均 23.8℃と亜熱帯の島です。

この島の中心的産業と言えば観光と砂糖きびです。いま、その砂糖きびの刈取りが（1月～3月）最盛期を迎えている。この収穫時期には関東・東北方面からのアルバイトや出稼ぎが多いと聞いている。そして、しばらく滞在している間にこの気候や風土が気に入りそのまま住み着く人がいるらしい。こちらではアルバイトに来る人たちのことを「援農隊」と呼ぶそう。

川平湾公園…アニメのヒーロー「ニモ」に出会える。南国特有の碧い空と海、白い砂浜、見事なコントラストが織り成す湾内をガラスボードで遊覧し船底のガラス越しに観る海底に広がる無数の珊瑚礁や色鮮やかなサカナ達、絵本の世界です。03年に公開されたアニメ「ファイティング・ニモ」。これは美しく雄大な海の中で小さなサカナ達がグレートバリアリーフでの大冒険物語です。また、この波静かな湾内では世界的にも珍しい黒真珠の養殖が盛

んに行なわれています。

みんさー工芸館…「みんさーふ」という木綿を藍で染めた南の島のロマンを秘めた紺餅。

亀甲墓（妊婦墓）…妊婦の寝姿に似ている。昔はお見合いを墓の前で行なったそうだ。

唐人墓…1852年米国船内で起こった事件で犠牲者となった中国人の墓。

八重山椰子群落…八重山群島にのみ自生している 10mにも及ぶ大型椰子の木・国の天然記念物。

バンナ岳…海拔 230m～石垣の中心街が一望出来る場所。

石垣鍾乳洞…全長 360m・全国 7 番目・洞内のイルミネーションが幻想的。

竹富島…人口 332 名。石垣島港から海上 10 分足らずで到着する。ゆっくり、のんびリズムの島です。そこには雑誌等の写真で見る「石積された塀」「赤瓦に漆喰を施した家」そして白い道、実に閑かな光景です。昔ながらの家並みを水牛車に乗って三線の弾き語りを聞きながら島内巡りは都会の喧騒を忘れさせ命の洗濯が出来たひとときでした。この島全体が国立公園です。集落部分の「町並み保存地区」を初め多くの国指定重要文化財があり歴史とロマンの島でした。時間が止まっている島の形容がぴったりでした。

ガイジ浜…星の砂。

幸福をもたらすと言われている星砂は、海の大蛇（フージャ）に食べられた星の子供たち

ここで牛車を引く水牛達は台湾からの開拓移民(昭和7年)と共に移住して来た子孫で、現在38頭が活躍している。

昭和44年のエルシー台風で大きな被害を受け島民の大多数が島を捨て西表島へ移住する中で、西表正治おじい夫婦のみが島に残り、由布島を「パラダイスガーデン」へのロマンを描き水牛達と苦楽を共にし、ヤシや花を植え続け手造りで楽園を造り上げた島なのです。水牛たちは温和しくて。優しい力持ちでした。

小浜島…人口560人。この島をいちやく有名にしたのはNHKドラマ「ちゆらさん」の舞台となった事です。

石垣島から約18km。西表島との間にヨナラ水道をはさんで2.5kmの海上にある小島。このヨナラ水道を別名マンタウェイと呼びマンタがよく観られる場所ですが、今回は出会うことが出来ず残念でした。

また、島の中央に在る標高99mの大岳(うぶたけ)。245段の石段を登り頂上に立つと今回の旅で行けなかった島々(黒島・泄蝕・新鶴など8島)が一望できた。静かで白い砂浜・碧い空が素敵な島達でした。



マングローブ



ハイビスカス



サキシマスオウの木の下で

の骨が流れ着いたと言う悲しい伝説が地元の人達に語り継がれている。実際は海藻などに付着している原生動物の中の有孔虫の骨格が、波によって砂浜に打ち上げられたものです。

西表島…人口2,334名。石垣島からさらに西方に位置する西表島。周囲1301m。石垣港から高速船で40分。沖縄本島に次ぐ大きな島。その島の大半を山岳で占め、90%以上が熱帯、亜熱帯の原生林におおわれている。この島の降雨量は年平均2600mm以上と多く熱帯雨林の様相を見せている。このジャングルの中に棲む天文記念物のイリオモテヤマネコ(80~100頭)・カンムリワシ(80羽)等は年々減少していると地元の人のお話でした。これらの他にもセマルコハミガメ・ヤエヤマヤシ・サキシマスオウノキ等の世界的にも珍しく貴重な動植物が生息している。残念ながらいずれの動物たちにも出会う事は出来なかった。

仲間川ジャングルクルーズ…マングローブを観る。西表島の玄関口の大原港から上り・下り一時間の船旅です。左右の岸边には無数のマングローブ群を観る事が出来る。マングローブとは、ヤエヤマヒルギ・オヒルギ等の群生林を言う。また、あの独特の形をした根っ子を支柱根と言うらしい。水辺には色鮮やかな珍しい水鳥のカワセミを観る事が出来た。

由布島…人口18名。西表島から遠浅の海中を水牛車に乗り、のんびりと揺られること20分。周囲2km・海拔15mのこんもりした島。そこには亜熱帯の生き物たちが自然に在るままの由布島に着く。

カネカメディクス訪問記

縄 田 順 孝



3月9日、鐘華会九州支部の恒例の職場訪問を九鐘会の御協力でカネカメディクス九州営業所で開催し鐘華会メンバー9名参加し和やかに開催いたしました。

メンバー全員顔色も艶やかに元気な姿に一同カネカの現状を聞きながら更にこれからの人生の楽しみを期待した一日でありました。

まずメディクスの小野さんから現状を聞き医学分野の発展の素晴らしさと現状の器具の一端を紹介して頂き、高齢化が進む現代社会への大きな貢献につながる事が理解できたことは嬉しい事でした。

というものの事業として展開する現状は毎日が大変だと理解でき特に臨床的事実と判断には大変な苦勞が推測されました。新技術の進歩は企業の発展には不可欠であります私達は元気な高齢者でありたいとの願いも強くカネカの前進と共にOB、OGが益々活発な人生を享受できるように在りたいものです。

次にカネライト事業について堂ノ口さんから紹介を受け事業の難しさを教わりましたが九州地区ではシェアも高くこまめな営業活動展開で頑張っておられる様子がうかがわれました。家屋の洋風化が進み家具全体の要望の変化が著しい状況を理解すると共にそれにマッチした製品の開発の厳しさが伺えた。

生産部門の九州カネライトの稲岡社長の力強い支えと弛まぬコスト、品質、環境整備への執念を感じました。昨年工場の見学もさせていただいたが更なる発展と継続ある地道な努力を感じることができました。

昨今食品会社、家庭用機器における問題がTV新聞紙上を賑わしていますが生産部門の厳しさを思い起こした一時でした。これから更に難関を乗り越え益々発展への力強い意気込みをも感じることができました。

懇親会に移り元気な声が行きかう中、昔の業務への郷愁も感じながらカネカの一層の飛躍と元気な社員の声に我々OBも博多の夜も味わいながら意義ある一日を楽しむことができました。有難うございました。

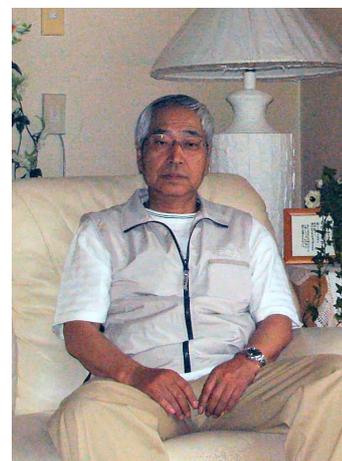
< 新会員自己紹介 >

今回、株式会社 カネカを定年退職となり、鐘華会九州支部に入会の機会を得ました山中俊一と申します。私はH3年4月、カネカ医療器事業部九州営業所に嘱託採用となり、H6年4月に社員に採用され、以後正社員として14年間勤務してまいりました。

この度、5月15日をもって、株式会社カネカに嘱託採用が決まり、株式会社カネカメディクス福岡営業所に出向勤務することになりました。この度、鐘華会入会に際し、輝かしい経歴をお持ちの諸先輩方の仲間入りをさせて頂く事は大変喜ばしく、一層のご指導、ご鞭撻を賜りたくお願い申し上げます。

趣味と言って特にありませんが(焼酎で晩酌ぐらい)、これからは時間を見つけて、家内と二人で旅行にでも行こうかなと考えていますが…(しかし、孫たちの子守に追われてママンラズ)

以上、ご挨拶並びにご紹介をさせて頂きました。よろしくお願い申し上げます。



【平成19年度 支部活動報告】

◇ 既に実施した行事

年	月	日	活 動 内 容
19	01	26	(全体役員会)
	02	14	支部幹事会
	03	09	職場訪問・懇親会(9名)
	04	21	第15回GC/三井GL(5名/15名)

◇ これからの予定

年	月	日	活 動 予 定
19	05	15	支部だより第12号発行
	07		ゴルフコンペ
	07		(鐘華第57号)
	08	07	支部幹事会
	10		ハイキング
	11		支部例会
			支部だより第13号発行

(特記事項)

- ◇ 恒例の職場訪問と九鐘会との懇親は、九州営業所の昔の仲間や出向者を含め総勢18名と大盛況。大いに盛り上がりました。(前ページ参照)
- ◇ 第15回ゴルフコンペは、現役の「あひる会」との共催でした。薬師寺さんが津久見から高速代8,000円かけて駆けつけてくれました。
- ◇ 支部幹事会は、いつも夜に会食していましたが、遠方の方は帰りが遅くなるので、次回から昼食をはさんで開催することにしました。

【人の動き】

・山中 俊一さん

5月15日定年退職→九州支部(前ページに紹介)

住 所 : 〒891-0102 鹿児島市星が峯1-18-5

Tel&Fax : 099 - 265 - 6736

E-mail : s-yamanaka@guitar.ocn.ne.jp

【定例役員会報告】

- ◇ 平成19年1月26日(金)14時よりカネカ芦屋荘にて定例役員会が開催されました。

- ◇ 主な内容は下記の通りです。

- ① 平成18年度会計報告並びに監査報告
- ② 各支部の18年度活動報告・19年度計画
- ③ 19年度予算審議・承認
- ④ 会費改訂(平成20年度より現行500円から1,000円に改訂)
- ⑤ 第7回鐘華会総会を平成21年10月23日(金)の開催を目標に、会場確保など準備を進める。
- ⑥ 役員会のメンバーの変更(敬称略)
(高砂) 支部長 岸本一男→田中義人
副支部長 神田 闊→笹間美之
同 田中義人→貝塚 壽
(大阪) 支部長 宮田 修→藤尾征成
- ⑦ 早川会長挨拶要旨
会員が1500名を超え、その運営は曲がり角に来ている。将来、鐘華会として法人格の取得も検討課題である。また、例会を始とする支部活動についてもマンネリ化が、否めず活性化について議論して欲しい。
- ⑧ 年会費について終身会費制度につき議論されたが、今回は見送り継続検討することになった。
- ⑨ 慶弔について制度についてよく知られてないので鐘華で広報し、各種の変更連絡が事務局へ来るように工夫する。

(お知らせ)

社内販売のコエンザイム Q10 と化粧品が値下げされ、買い求め易くなりました。この機会に是非お試し下さい。健康に、美容にきつとお役に立てるはずです。(添付資料参照)

ご注文は九州カネライト成相さんまで

電 話 : 0942 - 54 - 1992 (会社)

E-mail : Sadao_Nariai@ken.grp.kaneka.co.jp

あとかき

- ・青木さんが始められた葦ペン画は、「葦ペンで描く線は表情が豊かで、情感あふれる絵が出来上がる」そうです。青木さんのこれからの楽しみです。いずれまた、再登場を期待しています。
- ・市木さんは今回「南の島めぐり」です。何処にあるのか Google Earth で調べてみましたが、遠い島です。3月の懇親会の席で、趣味は「女房」とのこと。何処へ行くにも一緒に、全く羨ましい限りです。
- ・メディクス訪問記は縄田大先輩に強引にお願いしました。断られるかと思っておりましたが、期日前に原稿を送っていただきました。ところが、集合写真に肝心の縄田さんが写っていません。誠にすみませんでした。
- ・山中さんが久しぶりに新会員として加わります。顔写真ではチョット怖そうですが、大変やさしい好人物です。よろしくお願ひいたします。
- ・コエンザイムが値下りし、お求め易くなりました。私も愛用していますが、 γ -GTPの数値が下がり効果があるようです。是非、お試し下さい。